

## 音楽と音の本収録

### 音楽と音の本【2014No.10】(HP 収録)

分類：別冊本

著者・編者：西口徹(編)

書名：バッハ

副題：文藝別冊/KAWADE 夢ムック

発行所：河出書房新社

発行年度：2012年11月

備考：



概要：

音楽家に限らず、芸術家、文学者、アーティストに関するムック本シリーズの一冊で、目次の構成は次のようになっています。

まえがき

エッセイ

インタビュー

座談会「いまバッハをどう聴くか？」

バッハ演奏今昔物語

モダン楽器演奏家の歴史

ピリオド楽器演奏によるバッハ

バッハの音楽がどう演奏されているのか？

バッハの時代の楽器と古楽の演奏習慣

日本人バッハ演奏家の証言

外国人著名演奏家が語ったバッハ

古楽器でもモダンでも

3段階バッハ鑑賞法

声楽曲編

器楽曲編

J. S. バッハ 略年譜

小冊子でありながら、目次が示すようにバッハ音楽を多方面の視点から解き明かそうとしている豊富な内容と言えます。

バッハ音楽鑑賞の手引きとしては、モダン楽器演奏家の歴史、ピリオド楽器演奏によるバッハ、バッハの時代の楽器と古楽の演奏習慣の3節が特に参考になります。著名なバッハ演奏家に関してモダン楽器演奏家とピリオド楽器演奏家の活動の経過やバッハの時代の楽器とそれをどのように演奏するかがバッハを聴く上の基礎知識として有用だからです。

もう一つ、興味深いのは日本人バッハ演奏家や外国人著名演奏家がバッハをどう捉えているかということで、日本人バッハ演奏家の証言と外国人著名演奏家が語ったバッハの2節の内容です。その中でビルスマが、バッハの無伴奏チェロ組曲を称して、「歌うように」弾くというよりは、「語るように」弾くべきだと言っていることと、チェロ演奏家が侵す過ちとして「弾き過ぎる」ことにあると言っていることです。「自分の演奏を中心に考える」のではなく、「聴衆とともに音楽が発展していくことに耳を傾けながら弾く」のだと言っているのです。別にバッハだけでなく、昨今の演奏会では「弾き過ぎる」、「やりすぎる」演奏が多いように思いますので、蓋し名言だと思います。

目次にないコラム欄もあって、バッハとジャズ演奏の余談などもあって楽しみながら知識が得られる本と言えます。